

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <https://www.matuoka.co.jp/>
(ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話：0120-094-777(通話料無料)
受付時間：平日9時～17時(土・日・祝日等を除く)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社マツオカコーポレーション
広島県福山市宝町4番14号
<https://www.matuoka.co.jp/>



個人投資家の皆様へ



当期は、2024年3月2日(東京)、22日(大阪)の2回、個人投資家説明会を開催いたしました。2日はオンライン、22日は対面で開催し、いずれも多くのご参加いただき、事業概況や新工場の紹介、中期経営計画の進捗や今後の見通し等についてご説明いたしました。参加していただいた皆様からいただいたご質問にお答えするほか、アンケートを通してさまざまなご意見をお聞きすることができ、大変貴重な機会となりました。

今後も、株主の皆様とのコミュニケーションの場を拡充するとともに、中長期的な企業価値向上のため、各種情報発信の強化に努めてまいります。

スポーツを通じて広島を元気に!



当社グループは、広島東洋カープ・サンフレッチェ広島・広島ドラゴンフライズを応援しています。



第68期 株主通信

2023年4月1日～2024年3月31日

株式会社マツオカコーポレーション
証券コード：3611



株式会社マツオカコーポレーション
代表取締役

松岡 典之

「つくり場」に磨きをかけて、 さらなる成長と 新たな目標達成を目指す

当期(2024年3月期)の業績について
お聞かせください。

当社グループは、アジア5か国に工場を展開し、主に国内のアパレルメーカー向けに、衣服の縫製や素材の開発・加工を行っています。2021年5月に2022年3月期から2026年3月期の5年間で計画期間とする中期経営計画「ビジョン2025」を策定し、当期から第2期がスタートしました。

第2期の1年目となる当期では、アパレル製品の需要は戻りつつあるものの、期初に想定していたとおり在庫調整の1年となり、加えて期の後半では暖冬等の天候不順が影響して追加発注が弱含みで推移するなど、受注獲得に苦戦しました。

一方で、第1期で新設した工場を中心に生産能力の拡大を進め、引き続き中国からASEAN諸国等への生産地シフトに注力しました。これにより、自社生産比率が向上するとともに、生産コストの削減等による利益拡大に貢献しました。自社工場ならではの強みを活かし、生産ロスの削減や受注量に合わせた適正な生産ラインおよび人員配置等の実施によって生産効率を高めたことで、利益率アップにつながりました。

その結果、売上高は601億76百万円(前年同期比4.1%減)で微減となりましたが、経常利益は44億93百万円(同40.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は24億57百万円(同46.6%増)と大幅な増益を達成することができました。

生産拠点の稼働状況はいかがでしょう。

既存工場については、問題なく安定的に稼働しています。当期後半では天候不順等の影響で受注が伸び悩みましたが、受注量に応じた生産ラインの構成や人員配置を工夫する等、生産効率を高めることに注力しました。

新工場では、受注量に応じて生産ラインを増やしましたが、想定に対して受注量が先行せず、計画よりやや遅れが生じています。ただ、当期末にかけて流通在庫の解消が緩やかに進み、受注面で回復の兆しが見えはじめました。今期後半では在庫調整が一服し、それに伴う受注拡大を見込んでおり、新工場は増加する受注に対応する生産体制の中心的役割を担います。アフターコロナの成長を見据え、コロナ禍の厳しい時期でありながら思い切った大型投資を行ったことは間違いでなかったと確信しています。

透湿・防水加工技術を生かした機能性素材を開発している中国の子会社、嘉興徳永紡織品有限公司では、高い生産技術や素材開発力が強みとなり、環境問題への対応が重要視される欧米顧客との取り組みを開始しました。顧客と連携して環境基準に対応した新素材の共同開発も進めています。研究開発には相応の時間を要しますが、今後、事業拡大および利益貢献につながるものと期待しています。

今期(2025年3月期)の業績見通しと、 注力するポイントをお聞かせください。

今期の業績については、売上高は640億円(当期比6.4

%増)、経常利益は36億円(同19.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は26億円(同5.8%増)を見込んでいます。

中期経営計画第1期で新設した工場を中心に、生産能力を拡大し、生産設備導入等を通じて生産効率の向上を推進しながら、生産量の増加と収益性の向上につなげてまいります。

コロナ禍を経て、アパレル業界を取り巻く環境やサプライチェーンの在り方は大きく変容しました。縫製工場(つくり場)の減少を背景として、顧客がリスク回避のために生産地を見直す傾向が強まり、足もとでは消費者の選別消費が一層加速していることも影響して、小ロット短リードでの発注が一層増えるものと想定しております。

このような環境変化に対し、当社グループの強みである生産拠点網を活かした最適地生産の提案等を通じて柔軟に対応するほか、顧客ニーズに合わせて商品構成を変えながらより付加価値の高いアイテムの生産に取り組んでまいります。

かねてより注力している中国からASEAN諸国等への生産地シフトは順調に推移していますが、原材料や輸送費など生産コストの上昇が続くなか、コスト競争力の高いベトナム・バングラデシュを中心としたASEAN諸国等での生産を強化し、さらなる生産効率と利益率の向上に取り組むことで収益性の高い経営を目指します。

また、新工場設立に伴う自社工場生産比率の高まりを受け、生産拠点と顧客を連携し、生産管理の要となるグループ本社のマネジメント機能の強化が、より一層重要になってきております。企画・貿易・物流といった商社機能の精度を向上させ、顧客への対応力をさらに高めることで、受注獲得につなげてまいります。

中期経営計画を見直しました。 その経緯と計画最終年度に向けての 見通しはいかがでしょうか。

中期経営計画において、アフターコロナへの準備期間とした第1期までについては、工場投資による先行コストもあり、緩やかな伸長を想定しておりましたが、復調傾向にあるアパレル製品の需要を背景に、中国からASEAN諸国等への生産地シフトを検討する顧客ニーズにしっかりと応えられたことが増収増益に寄与し、計画数値を上回る結果となりました。

第2期の1年目である当期(2024年3月期)では、前述のとおり売上高は中期経営計画目標をやや下回りましたが、ASEAN諸国等への生産地シフト推進に加え、品質と生産性の向上に取り組んできたことが実を結び、生産効率や収益性が向上いたしました。これにより、計画最終年度である2026年3月期の経常利益目標(35億円)を前倒しで達成することができました。今期(2025年3月期)は為替差益の減少を想定しており、経常利益は前期比で減益ながら、中期経営計画の目標値に対しては過達の見込みです。これを受けて最終年度の経常利益を見直し、当初計画から7億円増の42億円を新たな目標として掲げることいたしました。

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は、株主への利益還元を図り、かつ財務の健全性や事業拡大のための新規投資とのバランスを検討



し、安定的かつ持続的な配当を行うことを基本方針としております。当期は、連結業績および中期経営計画の進捗状況と財務内容等を総合的に勘案し、1株当たり10円増配の50円の配当とさせていただきます。今後も、企業の財務状況と将来のビジネス戦略を考慮した上で増配を検討してまいります。

中期経営計画「ビジョン2025」は、第2期の後半に差し掛かっています。アパレル業界の構造変革も一層進むと想定されるなか、他社に先駆けて海外での生産に着手し、それぞれの国で品質の高いものづくりに取り組んできた実績は、さらなる成長を目指す上で欠かさない強みであり、他社にはない優位性であると考えております。

今後も「メイドインマツオカのものづくり」をより鮮明に打ち出しながら、それぞれの「つくり場」で生産能力と生産効率の向上を図り、収益力の高い経営構造を目指して邁進する所存です。

今後とも皆様のご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新工場紹介 - 事業拡大のエンジンとなる“つくり場”

当社グループは、2022年3月期から2026年3月期の5年間の計画期間とする中期経営計画「ビジョン2025」を推進しています。計画期間のうち最初の2年間では、ベトナム・バングラデシュでの新工場建設を重要ミッションに掲げ、約85億円規模の大型投資により予定していたすべての工場が計画どおり完成しました。現在は、2026年3月までの3年間の第2期が進行中です。第1期で拡充した生産能力をマッチさせ、受注と収益につながる生産拠点として新たな成長を実現してまいります。

● AN NAM MATSUOKA GARMENT CO.,LTD(ベトナム)

第3期工場:2022年11月完成
第4期工場:2022年12月完成

東京ドーム2個分を超える広大な敷地に建つ、当社グループのなかでも最大級の工場です。2019年設立の第1期工場から徐々に拡大し、2022年末に第4期工場が完成しました。大ロットオーダーを高効率で生産することに特化しています。



● THANH CHUONG MATSUOKA GARMENT CO.,LTD(ベトナム)

2022年12月完成

規模感こそ大きくありませんが、優れた技術力で、付加価値の高い商品を求めるお客様のニーズに対応するものづくりを進めています。いわゆる百貨店ブランドやセレクトショップのお客様からオーダーをいただくことも多く、マツオカの技術力が光る工場のひとつです。



● ISHWARDI MATSUOKA BANGLADESH.LTD.(バングラデシュ)

2023年2月完成

縫製業において世界的に注目されているバングラデシュ。他社に先駆けて2008年より同国へ進出した優位性を活かすとともに、新工場においても、生産性向上や、生産効率のデータ化・見える化に寄与する設備導入を積極的に進め、「メイドインマツオカのものづくり」に取り組んでいます。



進出先とのかかわり – “ものづくり”が生み出すマツオカの財産

ベトナム チン首相との対話会に参加しました

2023年5月、広島で開催されたG7広島サミット(主要国首脳会議)アウトリーチ会合参加のため、ベトナムのファム・ミン・チン首相が来日されました。首相の強い希望により、日本貿易振興機構(ジェトロ)・ベトナム計画投資省・駐日ベトナム大使館・広島県が主催し、広島市内でベトナム政府と日本企業の対話会合



写真提供:日本貿易振興機構(ジェトロ)

「日越ビジネスラウンドテーブル広島」が開かれました。当社も、ベトナムと密接な関係性を有する日本企業代表の1社として参加しました。会合では、ベトナムでのビジネス継続に向け、現在の課題やベトナム政府に期待すること等を述べ、ベトナムで複数の生産拠点を有し、地域とともに成長を続けて来たことが報われる機会となりました。

ミャンマー工場が創立20周年を迎えました

この度、当社子会社であるMYANMAR POSTARION CO.,LTDは、創立20周年を迎えました。ヤンゴン市内のホテルにおいて記念式典を開催し、来賓、社員合わせて約150名が出席しました。当社グループは、他社に先駆けてミャンマーへ進出し、20年の長きにわたり地域の皆さんとともに事業発展に尽力してきました。中国に続く進出先として、縫製技術の継承だけでなく地域に根差した人材育成にも注力し、現在は男女問わず、多くの優秀な現地責任者によって工場運営できるまでに成長しています。

今後も30年、40年と持続的な成長を目指し、努力を重ねてまいります。



地域貢献 – 地元企業として子どもたちの未来を後押し

地元金融機関主催の「学校で企業フェア」に参加しました。未来を担う子どもたちに地元企業を知る機会を提供するため、地域の中学校を訪問し、企業PR活動を行いました。

今後も、地元企業として子供たちが将来働きたいと思える会社を目指し、企業価値向上につとめてまいります。



子どもたちの声

普段着ている服も、ここで作っていることがわかって興味を持てた

色々なブランドの服はこうやってつくられているんだと知ることができてよかった

有名なブランドの商品に自分が考えたアイデアが入ると思ったら楽しいと思った

広島を本拠地とするプロバスケットボールクラブ「広島ドラゴンフライズ」とスポンサー契約を締結しました。地元広島の企業として社会や地域に貢献し、とりわけバスケットボールを愛する子どもたちの成長と挑戦を応援したいという思いから、15歳以下のユースチームに対する協賛を行っています。

広島ドラゴンフライズの掲げる“すべては子どもたちのために”というスローガンに賛同し、ユースチームパートナーとして子どもたちのチャレンジを支援してまいります。



写真提供:広島ドラゴンフライズ

人的資本 – サステナブルな発展と成長のために

当社はこの度、本社新社屋建設を実施することを決定いたしました。2024年3月より工事を開始し、完成は2025年3月を予定しています。

新社屋建設への想い

- ITインフラの充実・刷新により、業務の効率化・生産性向上を推進する
- 働きやすいオフィス環境で社員エンゲージメントを醸成するほか、新しい人材確保にもつなげる
- 2万人のグループ社員といつでもつながるコミュニケーションの場。ビジョンを共有し、ともに成長を目指す

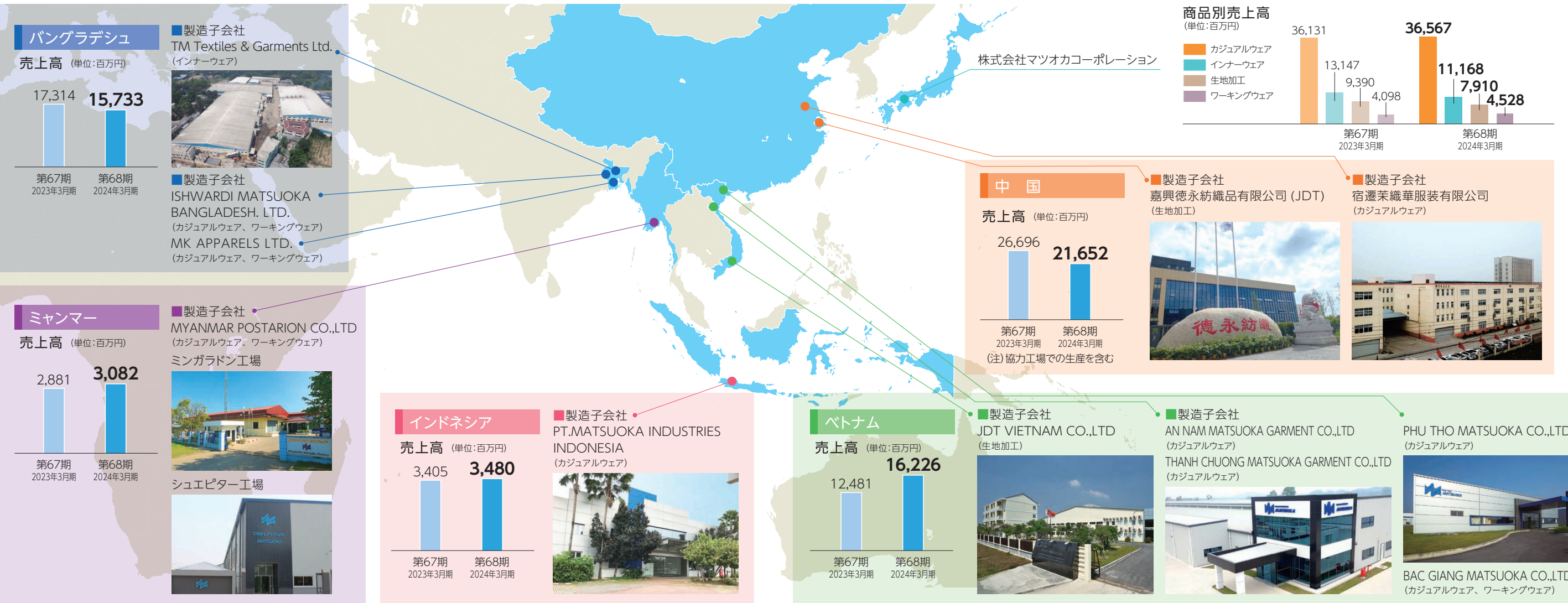


新社屋外観イメージ

事業の概況

生産国別売上高

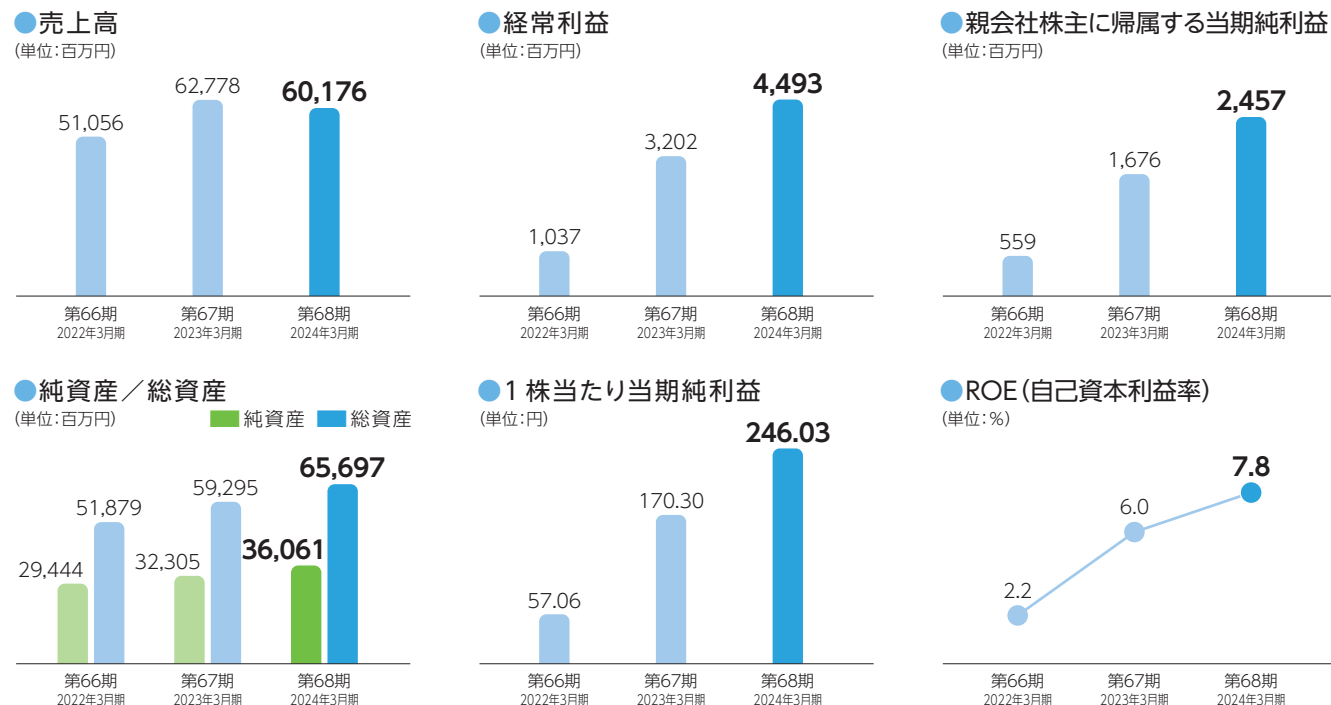
最適地生産を実現し、グローバルな事業拡大を目指してまいります。



(注)生産国別売上高は、当社グループの連結売上高を生産国別に集計したものです。

財務ハイライト

連結財務ハイライト



主要連結財務データ

	第66期 2022年3月期	第67期 2023年3月期	第68期 2024年3月期
売上高 (百万円)	51,056	62,778	60,176
経常利益 (百万円)	1,037	3,202	4,493
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	559	1,676	2,457
総資産 (百万円)	51,879	59,295	65,697
純資産 (百万円)	29,444	32,305	36,061
1株当たり当期純利益 (円)	57.06	170.30	246.03
ROE(自己資本利益率) (%)	2.2	6.0	7.8

会社情報・株式の状況

会社概要

2024年3月31日現在

設立 1956年4月
 資本金 5億8,699万円
 従業員数 17,278名(連結)
 主な事業内容 アパレルOEM事業

役員一覧

2024年6月27日現在

代表取締役	松岡 典之	社外取締役	江島 貴志
取締役	渡邊 篤史	社外取締役	中川 康明
取締役	田村 保治	常勤監査役	栗山 文宏
取締役	馬場 誠	常勤監査役	郷 英訓
取締役	金子 浩幸	社外監査役	岡 耕一郎
取締役	松岡 辰徳	社外監査役	松本 久幸
取締役	辻 和克		

主な事業所

本社 広島県福山市宝町4番14号
 東京事務所 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目3番2号
 セントピアビル5F・7F・10F

主な子会社

中国 茉織華実業(集団)有限公司
 上海茉織華服飾有限公司
 浙江茉織華貿易有限公司
 宿遷茉織華服装有限公司
 嘉興徳永紡織品有限公司
 TM Textiles & Garments (HK) Ltd.
 MYANMAR POSTARION CO.,LTD
 ミャンマー バングラデシュ MK APPARELS LTD.
 TM Textiles & Garments Ltd.
 ISHWARDI MATSUOKA BANGLADESH.LTD.
 ベトナム PHU THO MATSUOKA CO.,LTD
 BAC GIANG MATSUOKA CO.,LTD
 AN NAM MATSUOKA GARMENT CO.,LTD
 THANH CHUONG MATSUOKA GARMENT CO.,LTD
 JDT VIETNAM CO.,LTD
 インドネシア PT.MATSUOKA INDUSTRIES INDONESIA

株式の状況

2024年3月31日現在

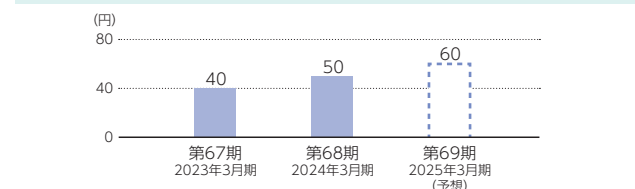
発行可能株式総数 38,500,000株
 発行済株式総数 10,086,900株
 株主数 2,906名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
合同会社マツオカカンパニー	1,775	17.76
松岡典之	1,241	12.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	469	4.69
株式会社広島銀行	420	4.20
株式会社ジェイ・ウィル・インベストメント	300	3.00
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	288	2.88
日本生命保険相互会社	250	2.50
神原汽船株式会社	250	2.50
倉敷紡績株式会社	250	2.50
上田八木短資株式会社	230	2.30

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

配当金の推移



株式分布状況

